

タックス・イーターの正体

弁護士 志賀 櫻

- * 財政を一般会計だけで議論しても意味がない
- * 三大事業官庁と鉄のトライアングル
- * 年金制度の崩壊が誤魔化されている
- * 特別会計は依然、一般会計の2倍の規模
- * 当初予算主義と無責任
- * 社会保障の破綻は国家財政の破綻だ
- * 最大の問題は情報開示の欠如
- * 日本の財政が破綻に至った経緯
- * 金融セクターの肥大化が経済危機の根因
- * ニューケインジアンモデルは誤り
- * 諸悪の根源はタックス・ヘイブン



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、『タックス・イーター』という本を岩波新書で出されました志賀櫻先生に来ていただきました。志賀先生は、日銀の黒田東彦総裁の四つ下だそうで、昔は机を並べたことが4回ほどあるということでございます。昔から肝胆相照らすのとは逆のほうの関係だったそうでございまして、黒田政策には批判的でございます。それから、皆さんも同じだと思いますが、税金を払わないでただ乗りをする人と、税金を既得権益で持つていく人というのは日本にたくさんおりまして、私どももそういうことに対してどうやって指弾をしたらいいかと常日頃考えているわけです。今日は、税金のことも、金融のこともたいへん詳しい志賀先生に胸のすくよう

なお話をしていただけだと思いますので、ぜひよろしく願いました。

それでは志賀先生、よろしく願いました。す。（拍手）

志賀 本日はどうもありがとうございます。志賀でございます。

2013年3月に『タックス・ヘイブン』を岩波新書で出しました。そうしたら、その直後から、キプロス危機と国際調査報道ジャーナリスト連合によるブリティッシュ・ヴァージン・アイランズを中心とするタックス・ヘイブンの話が噴出してまいりました。

それに関連して、日本固有の財政危機の話と、連続して生ずる世界経済危機を、国際租税と国際金融の面から全部カバーしようと思っ